

作文部門 入賞作品

文部科学大臣賞

「お父さんは一年生」

鶴岡市立羽黒第三小学校三年

金 野 華 奈

「お父さん、真つ黒くて華奈どいいししょうぶだの。」
真つ黒く日やけたお父さんに、お母さんが言いました。私もプールや外あそびで日やけしましたが、お父さんは私よりも黒く見えます。

お父さんは、今年の春からのうぎょうをしています。長くつとめた会社をやめて、おじいちゃんといっしょに仕ごとをしています。

今までは休みの日だけ、家の手つだいをしていましたが、今年からは毎日田んぼに出ています。たねまき、田うえ、しょうどくなどしなければいけないことがたくさんあるそうです。そして、いつごろしたらいいのかもむずかしくて、おぼえるために手ちょうように書いたり、パソコンで調べたりしています。

私は今年、朝顔とほうせんかを育てています。毎日の水かけが大へんで、ときどきお母さんに手つだつてもらったりしているのに、お父さんたちは二人で広い田んぼを見ているのだから、とても大へんだと思います。夏



のあつい日には、あせをたくさんかくので大きな水とうの水を全部のんできます。仕ごとがおわってから、つめたいビールをととてもおいしそうにのんでいます。

お父さんが会社につとめている時は、ざんぎようで会えないことが多かったけれど、今は毎ばん家ぞく全員でごはんが食べられてうれしいです。お父さんも、

「この時間が一番楽しみだ」と言っています。

しんせきの人からも、羽黒の米はおいしいと言われるそうです。私も家の米はとてもおいしいと思います。おじいちゃんたちが、がんばって作っているからだと思います。

お父さん、来年は二年生になるのだから、もっともつとおいしいお米を作つてね。

全国農業協同組合中央会会長賞

「お米でびっくり計画」

村山市立戸沢小学校四年

高橋 理久

ぼくのお姉ちゃんは、今年の春から秋田の大学に入つたので、一人でアパートにくらしています。ぼくは、けんか相手がいなくなつたので、ちよつときびしいです。

五月のゴールデンウィークに、お父さんとお母さんとぼくで、お姉ちゃんの所に遊びに行くことにしました。いろいろなおみやげを持って行くことにしました。そのいろいろな物とは、お母さんの作ったお料理とおかし、家でとれた野菜とお米、りんご酢などです。

それと、ぼくたちは、お姉ちゃんをおどろかさうと思つて、内しよである物を持って行く計画を立てました。それは、もち米ともちつき器を持って行って、つきたてのやわらかいおもちをお姉ちゃんに食べてもらうことです。ぼくは、そのことを思うとわくわくしたり、どきどきしたりして、秋田に行くのが楽しみでした。

いよいよ出発の日です。午後の二時に出発しました。お父さんとお母さんから、海のそばをずっと通つていくと聞いていたので、それも楽しみでした。

でも、あまりにも遠かつたので、ぼくはと中でねてしまい、ちよつとしか海を見られませんでした。着いたのは七時で、走りきよりは、なんと百五十キロメートルでした。ぼくは、村山と秋田の間は長いんだなあと思いました。

お姉ちゃんと久しぶりに会って、ちよつときんちよう



しました。ぼくは、お姉ちゃんの部屋は小っちゃいんだ
なと思い、ちよつとかわいそうになりました。

持って行ったもちつき器をみたお姉ちゃんは、びつくり
していました。そして、

「ちようど食べたくなっていたんだ。わたしの気持ちが伝
わったんだね。」

と、とてもうれしそうでした。

お米をといで、水につけました。そして、次の日の夜
つきました。お米をふかしているとき、ほかほかの湯気
がいつぱい出て、部屋中おいしそうなおいがありました。
その後、もちつき器に入れて、スイッチを入れました。
ふかしたお米がつぶれて、だんだん丸くなっていくのが
おもしろかったです。

つきあがったおもちを、お母さんが、お姉ちゃんのす
きななつ豆もち、ぞうに、あんこもちにしてくださいました。
四人で食べるおもちは、かくべつにおいしかったです。
お姉ちゃんは、

「つきたてのおもちなんて一人のときはぜつ対食べられ
ないから、すごく感激き。うれしい。すごくおいしい。」
と、とてもよろこんでくれました。よろこんでいるお姉
ちゃんを見て、ぼくは、自分もうれしくなりました。

ぼくたちの計画は、大せいこうでした。

■山形県知事賞■

田んぼはいのちがいっぱい

庄内町立余目第四小学校三年 瀬川 隼矢

この前、ぼくはお母さんに新聞にお米の花の記事がのっているよと言われました。いねのほが出そらい、お米の花がさき始めたと言うこと。そのお米の花は午前九時ごろからわずか一時間ほどしかさいていないと言うことを聞きました。

ぼくはさっそくこのお米の花を見たいと思い、カメラを持って出かけてみました。この前まで葉っぱばかりだったいねにしつかりほが出ていました。でもすでに花が開いた後のおしべがはみ出ている物ばかりで、その日は見つけることができませんでした。

二、三日後また行ってみました。朝から暑くてあせが流れました。お米の花はなかなか見つかりませんでした。そうしているうちに、いねの根元でミミズがウロウロ、アメンボがスイスイ泳いでいるのを見つけました。さら

にいねの葉っぱの所で、今、まさにだっ皮しようとして
いるイナゴを見つけたのでした。小さい皮からゆっくり
頭、体、足と出て来る様子はとてもしんぴてきで目がく
ぎづけになってしまいました。皮をぬぎすてたイナゴは
すき通るくらいきれいな黄緑色で、すぐ頭を上にして
羽がかわくまでじっとしていました。お米の花も今日こ
そはと思い、根気強くさがしていききました。そしたらあつ
たのです。もみの先がわれ、中の白いおしべがピンと
びて、小さいけどとてもきれいにさくお米の花に出会え
たのです。この一つ一つが実つてぼくたちが毎日食べて
いるおいしいお米になると思うとうれしくなりました。

いつも見なれている田んぼだけど虫や小さな生き物た
ちの生きる場でもあるし、ここでとれたお米でぼくたち
も生きているんだとわかり、田んぼは命が一杯つまつた
とても大事な所なんだと思いました。今年もおいしいお
米がたくさんできるといいなと思います。

■山形県農業協同組合中央会会長賞■

おいそめ

最上町立向町小学校一年 後藤 怜

七がつ十四かに、おいそめをしました。四がつ十かにうまれたおとうのおいわいです。のがしらのじじとばば、たちこうじのじいちゃんとはあちゃんもきてくれました。

くわのきでつくったはしで、ばあちゃんがれおに、さかなとせきはんをたべさせました。くちにいれられて、れおはびつくりしたようなかおをしてだまりました。そして、なんだこれ、というようなふしぎなかおをして、べろをぺろぺろさせました。

みんなが、れおに、

「おめでとう。」

と、いいました。ぼくは、

「おっきくなつたね、れお。」

といって、あたまをなでなでしました。そしたら、れお

が、にこっとしました。

じじが、おいそめは、いっしょうたべもののに、こまらないようにするおいわいだとおしえてくれました。あかちゃんのときのことは、わすれちゃったけど、ぼくもみんなにおいwiseれたんだろうとおもいました。

おいそめがおわったとき、ママが、

「これが、れんの。これが、れきの。」

と、ぼくたちのはしを、だいじそうにみせてくれました。ばばが、くわのきのかわをけずってつくってくれたときいて、びつくりしました。すこしまがっているけどすこくかつこよかったです。

ぼくは、うれしくなつて、ごはんをもりもりたべて、大きくなるぞとおもいました。

■山形県知事賞■

力のもととはご飯

鶴岡市立栄小学校五年 河野 美波

「あーうめ!!」
と高校生の兄の声。

「ん〜おかわり!!」

と中学生の兄の大きな声。私も負けずに

「私にも、おかわり!!」

お母さんは、すわるひまもなく私達にご飯をよそってくれる。わが家のいつもの夕食風景だ。ご飯はおいしい。特にたきたてのご飯は最高だ。私のお兄ちゃん達は、相撲部なので何でもよく食べるけど、中でもご飯は本当によく食べる。白いご飯だけでもパクパク食べる。前に、ご飯をたくさん食べるわけを聞いたたら「ご飯は体をつくるきそなんだ。力もいっぱい出るしね。お米をたくさん食べると強くなるんだよ。」と教えてくれた。おばあちゃんが、

「農家の人たちが手間ひまかけて米を育ててるからね。おいしいさもかくべつだあんね。」と話してくれた。

私の家は、庄内平野の中にあいまわりには田んぼが広がっている。私の家にも田んぼがある。でも、農業する人がいなくなつて、二十年以上前から親せきをお願いしている。委託というのだそうだ。おばあちゃんは若いころ朝、夕と田んぼに出て農作業をしていたので、大変さがよくわかつているのだろう。

「ほんとで大変だんよ。だから稲を刈って収かくするどうれしぐでの。そのお米をいただくのだから、いいこといっぱいだぞ。」

とおばあちゃんはいつも言う。

うちで食べているお米は、親せきの家で作っている「はえぬき」だ。それを三十キロずつ精米して食べている。

私の大会の日の朝ごはんは、おにぎりだ。一口大の塩おにぎりをお母さんが口に入れてくれる。これで試合をせいっぱいがんばれる。

お兄ちゃん達も相撲の大会の日は、おにぎりを持っていく。

「がんばれよ。自分の力を出し切ってこいよ。」

と、おばあちゃんやお母さんが心をこめてにぎったおにぎりだ。そのおにぎりを食べて力を出してくる。

やっぱり、ごはんは力のもとなんだなあと思う。お米つてすこいな。

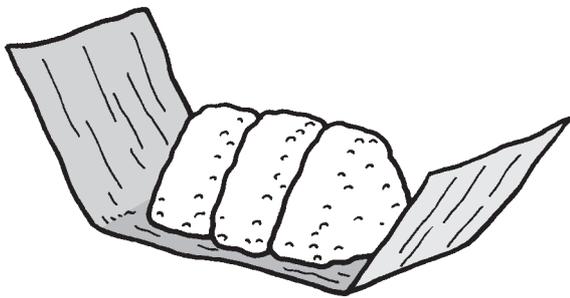
そう思っただけで田んぼを眺める。田んぼつてきれいだ。風にさわさわゆれる稲がきれいだ。よく見ると、先に穂がついていた。これから大きくなるんだろうな。

もうすぐ秋。収かくの季節だ。おじさんが笑顔で持ってきてくれる新米が楽しみだ。

今日もまた、大きなどんぶりだ、お兄ちゃんが、おいしそうにご飯を食べている。

「精米したお米三十キロが、あつというまに、なくなるんだよ。」

とお母さんの声が聞こえる。うちのみんなの力のもと、ご飯。私も食べるぞー!!。



■山形県農業協同組合中央会会長賞■

ぼくと米とのかかわり

鶴岡市立斎小学校五年 上野 艦

五年生になって社会の教科書を見ていたら、お父さんの職場がのっていました。ぼくの会ったことのあるお姉さんの写真もあってびっくりしました。

ぼくのお父さんは、山形県農業生産技術試験場庄内支場で働いています。小さい頃、お父さんの仕事はカメムシを育てることだと思っていました。本当は、イネを病気や害虫から守る仕事をしています。病気になったり、害虫がついた米は、全めつしたり、色が黒くなったりします。そうならないための研究をしているのです。

教科書を見て、米の「はえぬき」がお父さんの職場で開発されたことを知りました。農家の人が育てやすいように作られたそうです。

その「はえぬき」を作っているのがぼくのおじいさんです。

おじいさんは、毎朝四時過ぎに起きて毎朝田んぼに出かけます。いつも大変だな、と思います。米づくりは、春から秋の収穫まで休むひまがありません。田植えが終わっても、水の管理やじよ草、農薬をまく仕事などたくさんあります。

前、おじいさんの田んぼに行った時、いろいろな虫を見つけました。そして、虫のなかにもイネにとっていい虫（益虫）と悪い虫（害虫）がいることをお父さんから聞きました。イネの穂を食べてしまう虫と、その虫を食べる虫です。ぼくは、農薬を使うといい虫も死んでしまうんじゃないか心配になりましたが、いい虫のはたらしをできるだけ生かしながら、弱い農薬を適度に使うことを教えてもらい、ほっとしました。

お米を出荷する時は、厳しい検査があるので、病気や害虫で被害を受けてしまうと売り物にはならないそうです。

おじいさんが朝早くから田んぼの見回りに出かけるのは、病気や害虫を少しでも早く見つけて、防ごうとしているためなんだ、いいお米を作るためなんだ、とあらためて思いました。

ぼくは、毎日おじいさんのお米をお母さんにたいでもらって食べています。ぼくは、パンよりごはんが大好きです。特に好きなのがうめぼしおにぎりです。

ごはんを食べるとパワーが出ます。

「いつも元気なのは、ごはんをたくさん食べるからだね。」とお母さんはよく言います。

お父さんの職場の人たちが開発したお米をおじいさんが作って、ぼくが食べているって、なんかいいな、と思います。

ぼくもいつか、米づくりにかかわる仕事をしてみたいと思います。



■全国優秀賞■ ■山形県知事賞■

ごはんとお米とわたし

鶴岡市立第五中学校一年 佐藤 楓

僕の家は農家をしています。お米、野菜と色々作っています。やはりメインはお米です。僕の家では祖父と祖母が農家をして父と母は外で仕事をしていて、忙しい時期は、父が手伝いをしています。

お米は、土合わせから始まり、種まき、育苗、田植え、稲刈り、と進んでいきますがそれだけでなく、その間にも水の調整や草刈りや消毒があります。それも一回ではなく、二〜三回はします。僕も中学生になり、手伝いをする機会がふえました。種まき、田植え、消毒。どれをとつてもとても大変です。祖父母が、朝早くから夜遅くまで、一生懸命頑張っている姿を見て、僕は少しでも手伝いをしたいと思います。そうやって、家族みんなで作った僕のお米は、とてもおいしく、日本一ではないかと思っています。

我が家は、みんなご飯が大好きです。おかずがなくてもご飯さえあればみな元気です。農家でない家は、野菜やお米まで買わなければならぬのでしようが我が家は、お米を作っているのです、いくらでも食べられます。僕の家は八人家族で一日ご飯を一升二合炊きます。お母さんが

「今からこんなに食べてこれからどうするなー。」

と、言っています。なぜなら僕は四人兄弟だからです。僕が高校生になり、弟が中学生になると、もっともって食べることでしよう。お米を作らず買うとなると、大変だなあと 생각합니다。だからできるだけ僕も手伝いをし、お米だけは、作り続けて行けたらと思います。

八人家族の我が家は台所のテーブルでご飯を食べます。決して広い台所ではないのですが、テーブルを二個並べ、イスを置きます。それでも全員が座れないので二回に分けて食べたり、テーブルから離れて食べたりと、とてもにぎやかで、忙しい食卓です。

「台所にはテレビを置かない」「食事中はテレビを見ないで食べると良い」と言われていますが、八人が台所に入るとテレビどころではありません。テレビよりにぎや

かで、その日の出来事があつちこつちで飛びかっついて、誰が誰に話しているのかわからないくらいです。とても楽しい食事風景です。食事は静かに落ち着いて、という家庭から見たら行儀が悪いと思われるかもしれませんが、我が家では一番のコミュニケーションがとれる場所だと思っています。

僕の母は、

「おかずがねー」

と言うと、おにぎりを作ってくれます。僕達の好みが違うので、おにぎりの中味はいろいろです。

「なぜかおにぎりにするとご飯いっぱい食べるなやのー」と言っています。それにお天気の良い時などは、おにぎりを持って、外に食べに出かけます。とてもおいしく感じます。

僕達も大きくなったので台所に立つ機会が多くなりました。おにぎりや、チャーハン、ご飯の上に魚をのせた海鮮丼などを作り、家族に出す事もあります。

最近はお米を作る人も減ってきているようですが、日本のお米はとてもおいしい、世界一の主食だと思う僕は、頑張つて農業を続けて行きたいと思います。農業は自然

をも相手にしなければならぬので大変だと思っています。人間は、自然には勝てませんから。それをも頭に入れ学んで行くのだと思います。それにも負けずできたお米は、やっぱりおいしいです。おいしくなければいけないと思っています。

こんなにおいしいお米を無駄にせず、大事に食べてほしいと思います。



■山形県農業協同組合中央会会長賞■

田んぼの風景

天童市立第二中学校三年 山口 和華

私は今十四歳。そして、私の祖父が朝鮮から引きあげてきたのも十四歳だったと聞いた。伯母に聞いた話である。引き上げ船に乗る時一人一つずつの小さな袋しか持ちこむことができなかった。十四歳の祖父は、父と病気の母と、第二人、小さな妹と少しのお金と、袋に入るだけの米を持って船に乗った。病気の母はおいていったらいいと朝鮮の人に言われたそうだ。祖父は、弟と母親と三人で、そして父親は、三男と妹と三人で手を縛り合った。死ぬ時は、みんな一緒、日本に帰るのも家族一緒。母が動けなくなったら、背おってでも日本に帰ろうと思っただけだ。

引きあげ船はなんと広島に着いた。広島は原爆の焼け野原だった。そこで見た戦争。何もない、建物も緑も。戦争はまだ続いていたのだ。何もない町で何かを燃やし

ている人たちがいた。そこでお金を渡し、朝鮮から持ってきた米でごはんをたいてもらった。おにぎりにして、親子六人と、そこにいた人たちみんなで食べたという。六人一緒に帰ってこれた喜びだったのか、お祝いだったのか、生きていくぞという決意だったのか、祖父は死んでしまったのでもう聞くことはできない。

信じられない様な話だが、祖父の本当の話なのだ。大切な手荷物一つの中味は米だったのだ。

日本に帰って来て、祖父は上ノ山農業高校に入り、農業を学んだ。そして、米とりんごを作った。小さい時、私は祖父の田んぼで田植えや稲刈りを手伝ったことがあった。だが、何を話したのか覚えていない。田んぼの中でここにこ笑っている祖父の顔しか思い出せない。

祖父にとって一番下の孫の私は、怒られた覚えはない。ただ、自分で茶わんにごはんを盛り、残した時、「自分で食べられる量だけ盛るんだよ。」と言われたことがある。なんでそんな事言うんだろうと思っていた。

多くを語る人ではなかった。戦争の時のことなど知らなかった。もっといろいろなことを教えてほしかった。

話を聞きたかった。ただ、私は田んぼの風景が大好きだ。田植え前の、水をはった田んぼ。風で空を映した水がキラキラ動く。まっすぐ植えられた小さな苗は、なんだかかわいい。どんどん伸びて、緑のじゅうたんもきれいだ。暑い夏の暑い昼に咲く、小さくて白い花。そして秋、空が高く、黄金の田んぼ。祖父は私に言葉で教えることは少なかったが、風景は伝えてくれた。祖父の心は田んぼと共にある。

今の地球上でも南アフリカやアフガニスタンなどは食べる物が無い。生きるだけで精一杯、そんな国もある。こんな文章を見つけた。

『私たち人間は、みんなこの地球に生まれ、同じように平和を求め続けてきました。不公平な世の中で、恵まれている私たちが出来ること…それは食べ物を絶対に、粗末にしたり食べ残したりしないことです。小さなことかもしれないけど、小さな一歩が大きな夢の実現につながるということだれもが信じています。』

おいしいごはんがあるのはあたり前だと思っていた。が、それはちがう。田んぼ、米を作ってくれた人、天気、そして、ごはんをたいてくれた人。私に言葉ではなく、

田んぼの風景を伝えてくれた祖父。全てに感謝し、これからは手を合わせ、

「いただきます。」

と食卓につきたい。

日本人は昔から米を大切にしてきた。日本人の主食はごはんである。命がけで持ち帰って来た六つの命と米。こんな時代があった。忘れてはいけないと思う。

生きていくためには、米をつくる必要がある。祖父の心。この秋も確実に受け継がれている。

